

| 議長 | 副議長 | 局長 | 課長 | 課長補佐 | 係長 | 係 |
|----|-----|----|----|------|----|---|
|    |     |    |    |      |    |   |

## 委員会行政視察調査報告書

平成29年5月22日

三田市議会議長 様

経営政策常任委員会委員長 今北 義明

北本 節代

長谷川 美樹

佐々木 智文

小山 裕久

白井 和弥

随行者 市民病院事務局経営企画課長

喜多 充宏

随行者 議会事務局議事総務課係長

井筒 良和

本委員会が実施いたしました行政視察の結果を下記のとおり報告します。

- 1 実施日 平成29年5月10日（水）～11日（木）
- 2 視察先 5/10 広島県東広島市（シティプロモーションの推進について）  
5/11 広島県府中市（公立病院と民間病院の経営統合について）
- 3 視察先対応者 東広島市：議会事務局・政策企画部市政情報課  
府中市：議会事務局・健康福祉部健康政策室
- 4 添付資料 (別紙のとおり)
- 5 調査結果の概要及び所見 (別紙のとおり)

# 経営政策常任委員会 視察（広島県東広島市）

## 1. 広島県東広島市視察

### ■ 視察参加議員

◎ 今北 義明、○北本 節代、長谷川 美樹、佐々木 智文、小山 裕久、白井 和弥  
事務局随行

市民病院経営企画課 喜多 充宏

議会事務局 議事総務課 井筒 良和

■ 視察日時：平成29年5月10日（水） 午後2：00～3：30

### ■ 視察事項：シティプロモーションの推進について

- ① シティプロモーション戦略プランの概要・特徴について
- ② 東広島ブランドの構築について
- ③ コミュニケーション戦略の展開について
- ④ 推進体制の構築について
- ⑤ 事業の成果について
- ⑥ 今後の課題について

### ■ 視察対応者：議会事務局

弓場局次長 様

庶務係 山西係長 様

政策企画部 市政情報課 シティプロモーション推進係 倉本係長 様

山本主任 様

### ■ 視察概要および質疑

#### 【概要】

#### 1 東広島市概要

人 口 185,147人（平成29年4月1日現在）

面 積 635.16km<sup>2</sup>

市制施行 昭和49年4月20日

東広島市は、昭和49（1974）年に西条・八本松・志和・高屋の4町の合併により誕生し、賀茂学園都市建設、広島中央テクノポリス建設の二大プロジェクトを推進し、全国的にも注目される成長都市となっている。また、平成17（2005）年には、黒瀬・福富・豊栄・河内・安芸津の5町との合併を経て、内陸部の山々や瀬戸内海の多島美を望む海岸線まで市域が広がるとともに、歴史・文化等の多くの地域資源が加わった。こうした特長を活かし、産学金官の連携にこれまで以上に取り組むとともに、豊かな自然環境を活かして、個性的で魅力的なまちづくりを進めている。

#### 2 視察概要

別紙のとおり

#### 3 所見

別紙のとおり

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 調査日時  | 平成29年5月10日(水) 14時00分～15時30分 |
| 視察先   | 東広島市役所 政策企画部市政情報課           |
| 調査事項  | シティープロモーションの推進について          |
| <p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>[市の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は約19万人</li> <li>・広島県のほぼ中央部、広島市の東に隣接し、市の中心部から県内主要都市とは直線距離で概ね60km以内の距離にあり、アクセスが良好な立地条件にある。</li> <li>・前回国勢調査(平成22年)より人口は微増している。</li> <li>・特産品 日本酒、安芸津の牡蠣、西条柿</li> </ul> <p>◆東広島の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との連携 3大学約2万人の学生、教職員<br/>公的研究機関、産業支援機関から知的人材の集約。</li> <li>・外国人住民3、1% 中四国地方10万人以上の市で1位<br/>教育でも、産業面でも人材活用。</li> <li>・一校一和文化学習、「当たり前が当たり前ができる」東広島スタンダード<br/>夢と志を持ち、グローバル社会をたくましく生きる人材の育成。</li> <li>・都市の成長を支える産業構造を持ち内閣府「市区町村別経済指標」10年間で<br/>実力をつけたまち第3位。</li> <li>・世帯増減率、将来推定人口、県内1位(実績は別紙参照)</li> </ul> <p>◆シティープロモーション戦略プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分野で、都市間競争が厳しさを増しているなかで、住みたいまち訪れたいまち<br/>立地したいまち、即ち選ばれるまちになるよう戦略プラン策定。</li> <li>・新しい価値観の構築ブランドイメージ「くふうに満ちてる東広島」(実績は別紙参照)</li> <li>・20歳代から30歳代の子育て世代人口は減少傾向のため、東広島市の持続的発展<br/>には、子育て世代の定住人口増加が必要。</li> </ul> <p>◆プロモーションの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育てするなら東広島」キャンペーン</li> </ul> |                             |

特設ウェブサイト、テレビ CM、子育て情報誌など（実績は別紙参照）

・プロモーション推進事業

JR 駅貼りポスター、シネアド、よしもと芸人と行く東広島暮らしバスツアーなど

（実績は別紙参照）

◆シティプロモーションの効果

・平成 28 年度効果測定結果では、「子育てするなら東広島」キャンペーンの認知度は特に高くなっており、移住への関心度でも「豊かな自然に恵まれているから」に次「子育て環境が整っていきそうだから」が多い結果になっている。

・課題としては、対象になる子育て世代の定住に結びつけられるか、周辺部の人口減少率を緩和させることである。

[質疑応答]

質) 約 1 万 6 千人と言われた学生さんの内、市内に住んでいるのはどれ位か？

答) 約 7 ～ 8 割の方が住んでいる。

質) その学生さんは卒業後、東広島市で就職しているのか？

答) 平成 26 年の調査では 2、6 %の方が就職している。

質) 周辺部の人口減を緩和させようと思うと、市街化調整区域の問題も出てくるのではないか？

答) 市内 9 地区のうち 2 地区が市街化調整区域に指定されていますが、志和地区におきましては市中心部より近く自然も豊かであり、移住希望者が多い地区ですが商売などを考えている方々にはネックとなっており、これからの課題です。

質) テレビ CM など色々なプロモーションを行ってられるが、予算は？

答) 平成 28 年では、1 5 0 0 万円のうち CM 企画費 2 4 0 万円、放映料 5 2 0 万円です。

質) 東広島市の待機児童はどのようになっているのか？

答) 待機児童は増加してきている、地域間でのミスマッチも発生しておりこれからの課題です。

[その他]

〔所見〕

近年、わが国において人口減少や少子高齢化が問題になっています。  
東広島市においても、様々な分野で都市間競争が厳しさをましており  
都市としての成長の可能性を考えシティプロモーションを街の戦略として策定  
されています。その取り組みとして未来志向、成長都市、明るく元気な都市  
のイメージと街の認知度を高めるため「子育てするなら東広島」キャンペーン  
を展開されています。三田市においても同様の施策を行っていますが、東広島市  
においては、特別な子育て支援、医療費助成など行うのではなく、テレビCMや  
WEBサイト等で街の魅力をPRしシティプロモーションにつなげており  
三田市においても、三田の魅力を今までとは違う形で発信することで  
着実な人口流入と若年層等の流出抑制に繋がるのではないかと感じました。

## 経営管理政策常任委員会 視察（広島県府中市）

### 2. 広島県府中市視察

#### ■ 視察参加議員

◎ 今北 義明、○北本 節代、長谷川 美樹、佐々木 智文、小山 裕久、白井 和弥  
事務局随行  
市民病院経営企画課 喜多 充宏  
議会事務局 議事総務課 井筒 良和

■ 視察日時：平成29年5月11日（木） 午前10:00～11:30

#### ■ 視察事項：公立病院と民間病院の経営統合について

～地方独立行政法人府中市病院機構の取組みについて～

- ①府中北市民病院とJA府中総合病院の経営統合について
- ②独立行政法人化に至る経緯について
- ③独立行政法人化による成果・課題について
- ④医師派遣等における大学との協力体制について
- ⑤新・府中市民病院完成後の新たな取組みについて
- ⑥貴市の地域医療における今後の展望について

#### ■ 視察対応者：議会事務局

|       |       |           |      |   |
|-------|-------|-----------|------|---|
|       | 赤利局長  | 様         |      |   |
|       | 議事係   | 山路係長      | 様    |   |
| 健康福祉部 | 健康政策室 | 健康福祉推進係   | 杉原係長 | 様 |
|       | 健康政策室 | 片山病院運営担当監 | 様    |   |

#### ■ 視察概要および質疑

##### 【概要】

##### 1 府中市概要

人口 40,612人（平成29年4月1日現在）  
面積 195.75km<sup>2</sup>  
市制施行 昭和29年3月31日

府中市は広島県の東南部内陸地帯、北緯34度34分06秒、東経133度14分11秒、福山市へ18.5km、三原市へ40km、県北の中心都市・三次市へ65kmの地点に位置している。

市域は、東西17.13km、南北25.54km、面積195.75km<sup>2</sup>。地勢は、中国山地の余脈の標高400～768mに及ぶ小規模連山に囲まれた盆地を形成しており、河川は日本海に注ぐ江の川水系上下川と、瀬戸内海に注ぐ芦田川水系矢多川・芦田川の3河川があり、府中市上下支所前は分水嶺の地となっている。美しい白壁の町並みや豊かな自然が残っており、西北部から東南部にかけて流れる芦田川流域には平野が広がり、住宅、商店、工場が建ち並ぶ市街地を展開している。

##### 2 視察概要

別紙のとおり

##### 3 所見

別紙のとおり

### 〈府中市の地域医療再生についての概要〉

府中市は平成 16 年に府中市と上下町が合併してできたが、合併前は旧府中市に JA が運営する病院があり、上下町には町立病院があったが、合併を機にこの 2 つの病院を府中市がひきとり、府中北市民病院と府中総合病院の 2 つの市民病院が誕生した。

平成 17 年には府中北市民病院の大きな特別損失が発覚し、経営の健全化にむけての取組が行われることとなった。平成 21 年に経営統合と地方特別行政法人化にむけて歩み出す事となった。その後 H22 年に広島県地域医療再生計画や H23 年に府中市地域医療再生計画が策定され、H24 年には広島県の補助を受けながら府中総合病院の全面建て替えに着手し、独立行政法人への移行がスタートした。平成 27 年には新病院が完成し診察が開始された。

※詳細については添付資料を参照願います。

### 〈独立行政法人化による成果と課題について〉

独立行政法人化をする事による成果としては府中北病院と府中総合病院の 2 つの病院を存続させる事ができたこと。特に府中市民病院は建て替えによる設備の更新だけでなく、MRI や CT スキャン等の機材を導入でき、手術室も複数整備できた。これによりよい高度な治療が行うことができるようになったが、従来からの課題であった、医師や看護師の確保は引き続きの課題として残っている。また、独立行政法人化する際には新たな病院としての申請を行うためその時点での医師数に見合った病床数しか申請できず、府中北市民病院は 110 床から 60 床、府中市民病院は 199 床から 150 床、トータルで 309 床から 210 床に目減りしたが、もともと空きもあったので大きな影響は出ていない。

手法的な部分では地方独立行政法人化への体制づくりとして、通常のホテル運営の組織とは別に庁内に準備専門の部署をつくり移行に向けての調整をおこなった。

スタッフの体制については病院の事務局員に市職員を 2 名もしくは 3 名を派遣する体制をとった。移管については紆余曲折あり、様々な部分で問題が起こった（一部訴訟にも発展している）が現在は新体制で稼働している。移行以前の負債については独立行政法人法に基づき、資産も引き継いだと同時に約 14 億円の負債についても引き継ぐ事となった。

総合病院についてはプレキャスト工法という、後々増改築しやすい工法で建てられており、医師や看護師が確保できた後には病院を改築することも視野にいった設計で建てられている。

### 〈所見〉

広島県でも初めての独立行政法人化であり、不明な部分が多々有る中、完成までの期間が決まっており、スケジュールとしてはかなりタイトであったが、だからこそやりきれた面も有るとのこと。

三田市民病院が今後どのような転機を迎えるにせよ、国や県を巻き込んでの調整を強いられることが歴然としていることから、その際には議会としても特別委員会を設置するなど覚悟をもって臨まなければならないと考える。

○今回の研修受講に関する感想

◆広島県-東広島市「シティプロモーションの推進について」視察

人口約19万人の都市。広島大学の移転などを機に大学との連携などを中心に「東広島スタンダード」という高い水準の教育実践や、企業誘致による産業構造改革、都市間競争に打ち勝つための「シティプロモーション戦略」を確立し、地域創生に関する取り組みを積極的に展開している。

特に、数パターンの「テレビCM」はインパクトに満ちており、県内他市の住民インタビューなどの事後評価でも「〇〇するなら東広島」などと「ロズさめる」までに定着している。これらの戦略は強力なコンセプト力により支えられており、少ない予算の中で創意工夫に満ち溢れた展開を実施されていた。

◆広島県-府中市「公立病院と民間病院の経営統合について」視察

人口約4.3万人の広島県北東部の小さな中山間地域の市。近年、過疎市としての認定を受けている。

平成22年に広島県地域医療再生計画により、市北部の「市立病院(旧町立病院)」と、市中心部の「広島厚生農業協同組合連合会府中総合病院」とが、将来にわたる地域医療提供のための役割等を検討する中で、医師不足、経営不振からの脱却を図り経営統合する形となった。

平成22年4月から平成24年6月の独立行政法人化による市側の経営に至るまで、議会・住民・国・県などと多くの会議や調整を、市直轄の「医療政策室」を立ち上げ「6名体制」で実施されている。

特に、地域住民や職員(医療従事者)への説明と調整に時間を要したとのこと。また、派遣医師の大学医局が「広島大学」と「岡山大学」の2つにまたがるため、広島県を巻き込んだ体制を構築したとのこと、現在も、広島県病院局より1名の事務派遣を受ける中で、県との協力体制を継続している。

昨年(H28)11月に新病院150床を約56億円でリニューアルオープンしたが、それまでMRIも無かったとのこと、ほぼ1次医療までしか出来ていなかったものと推測される。福山市までは車で30分程度の距離はあるが、周産期医療を含め、2次・3次医療は全て福山市(福山市民病院506床)がカバーしている(広島県-地域医療構想より推測可能)。

オープン後も様々な工夫はしているが、医師不足は深刻であり、経営も赤字が続くと見込んでいるとのこと。

<ポイント>

- ・県、大学医局を巻き込んだ取り組みが必要
- ・住民、職員(医療従事者)の説明にはかなりの時間を要する
- ・結局は医師がいないと十分な医療は提供できない
- ・取り組み組織は、市の直轄で立ち上げ、数年は掛かる